

## 考古学からみた重源

(万富産東大寺瓦を中心に)

岡本芳明

### 【講座の概要】

治承四年(1180)十二月の「源平の戦い」で焼失した東大寺は、大勧進(東大寺復興の責任者)となった俊乗房重源により、朝廷や鎌倉幕府などの支援を得て復興された。

重源は、飢饉や地震、争乱の中で、大仏修造や大仏殿の再建など未曾有の大事業を進め、それとともに各地で仏教の布教に努め、荘園の開発や交通網の整備など戦災復興に貢献した。

万富東大寺瓦窯跡は、東大寺再建瓦を製造した窯跡で、14基の瓦窯や操業当時の礎石建物跡、工房跡などが確認されている。瓦は、東大寺大仏殿のみではなく中門や回廊、南大門、鐘楼にも使用され、30～40万枚の瓦が生産されたといわれる。

万富産の東大寺瓦は、再建された東大寺だけでなく、東大寺造営料国であった備前と周防の各地、東大寺の別所である渡辺別所からも出土している。これは、万富東大寺瓦窯跡が東大寺再建のみならず重源の作善とも大きく関わっていたことを示している。また、重源と縁のある地では、重源との関わりを示す考古資料が見つまっている。

これらの資料から、「支度第一俊乗房」と評された周到な計画性や徹底した効率性、人脈や組織力が示すカリスマ性、具体的に物事を成し遂げる強い意志、宗教的情熱など重源の人間像を知ることができる。

### ●万富東大寺瓦窯跡(瀬戸町万富)

鎌倉時代初めの東大寺再建瓦を製造した窯跡。分焰牀を持つ多数の半地下式平窯が築かれており、効率よく大規模に、多数の工人を組織して東大寺再建瓦が生産された。

### ○万富産東大寺瓦の出土地

岡山県内

山神遺跡(吉備津彦神社:吉備津宮常行堂跡)、湯迫山浄土寺の大湯屋跡(重源の備前の拠点)、百間川米田遺跡(備前国府津?)、安養寺と慶運寺跡(重源が修造した寺院)、吉井川底(東大寺瓦輸送経路)万富東大寺瓦窯跡がある岡山市東区瀬戸町万富周辺

岡山県外

周防国府跡(山口県:周防国府津推定地)、周防阿弥陀寺(山口県:周防別所)、大坂城下町跡(大阪府:渡辺別所推定地)、北新町遺跡(大阪府:東大寺瓦輸送経路?)

### ○その他考古資料等

新山廃寺の湯釜(岡山県:備中別所)と周防阿弥陀寺の湯釜、熊野神社の石獅子(岡山県)、播磨浄土寺の浄土堂(兵庫県:播磨別所)、栢杜遺跡(京都府:醍醐寺の栢杜堂)、狭山池の改修碑(大阪府)、佐波川の関水と流域の岩風呂(山口県:周防徳地の柚)

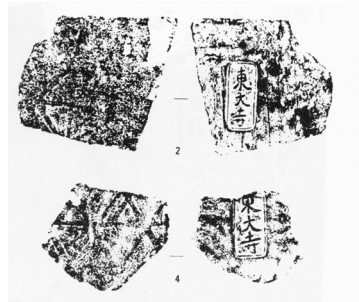
### 【交通】万富東大寺瓦窯跡:JR山陽本線「万富駅」から北東へ徒歩約400m

#### 【引用・参考文献】

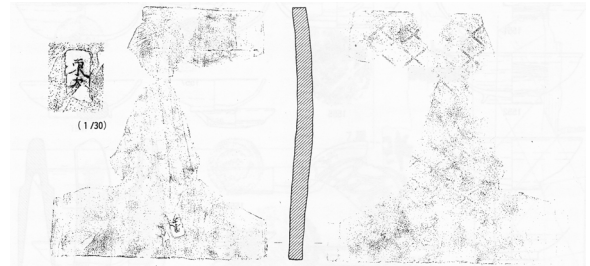
- 『泉瓦窯跡・万富東大寺瓦窯跡』岡山県教育委員会1980 『大坂城下町跡Ⅱ』大阪市文化財協会2004  
『太田吉岡村誌』赤磐郡太田村・吉岡村立千種尋常高等小学校組合1924 『改修赤磐郡誌』赤磐郡教育会1940  
『栢ノ杜遺跡』『京都市内遺跡発掘調査概報 平成16年度』京都市埋蔵文化財研究所2005 『北新町遺跡4』大阪府大東市1998  
『史跡万富東大寺瓦窯跡確認調査報告』瀬戸町教育委員会2003  
『周防国府跡出土の東大寺瓦』『角田文衛博士古希記念 古代学叢論』平安博物館研究部1983  
『周防阿弥陀寺第2次調査』『平成12年度防府市内遺跡発掘調査概要』防府市教育委員会2002 『周防市文化財調査年報Ⅳ』防府市教育委員会1982  
『俊乗房重源の研究』有隣堂1971 『俊乗房重源遺蹟の研究』『日本名僧論集 重源叡尊忍性』吉川弘文館1983 『瀬戸町誌』瀬戸町1985  
『総社市史 考古資料編』総社市1987 『大勧進重源』奈良国立博物館2006 『醍醐寺と重源』京都市考古資料館文化財講座資料2014  
『旅の勧進聖 重源』吉川弘文館2004 『重源上人』四日市市立博物館1997 『重源とその時代の開発』大阪府立狭山池博物館2002  
『土井遺跡・谷の前遺跡・慶運寺跡』岡山県教育委員会2005 『百間川米田遺跡4』岡山県教育委員会2002



第1図 万富東大寺軒丸瓦拓本



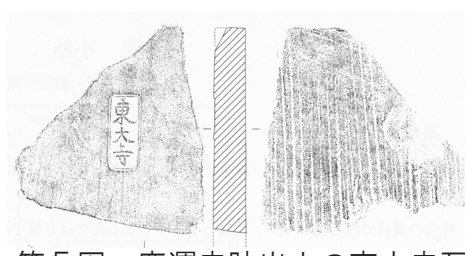
第2図  
吉備津宮常行堂  
出土の東大寺瓦



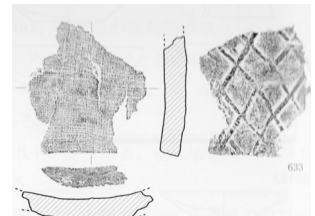
第3図 百間川米田遺跡出土の東大寺瓦



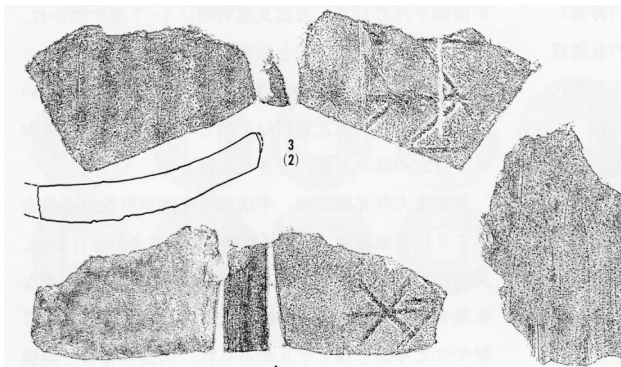
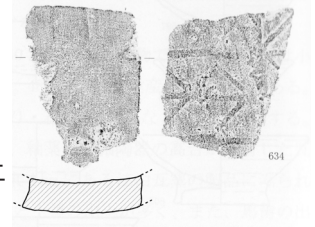
第4図 安養寺出土の東大寺瓦



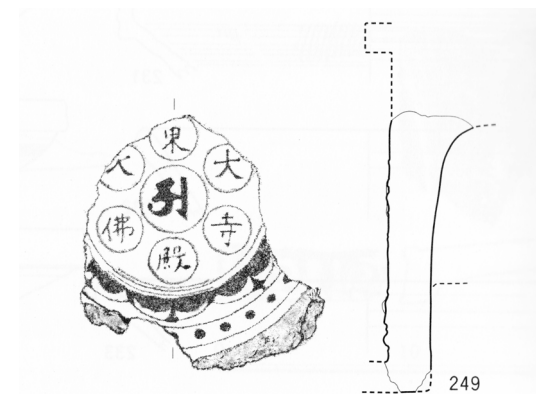
第5図 慶運寺跡出土の東大寺瓦



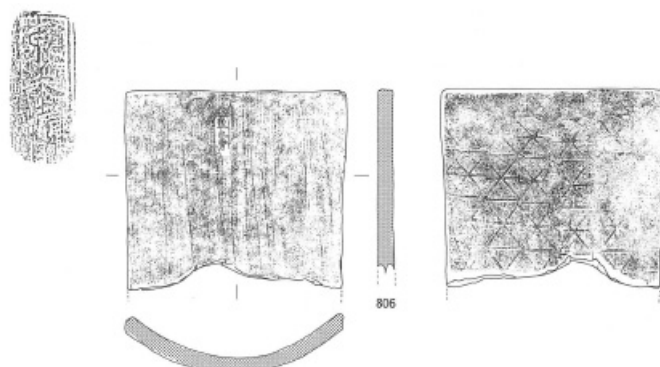
第6図  
周防国府跡出土  
の東大寺瓦



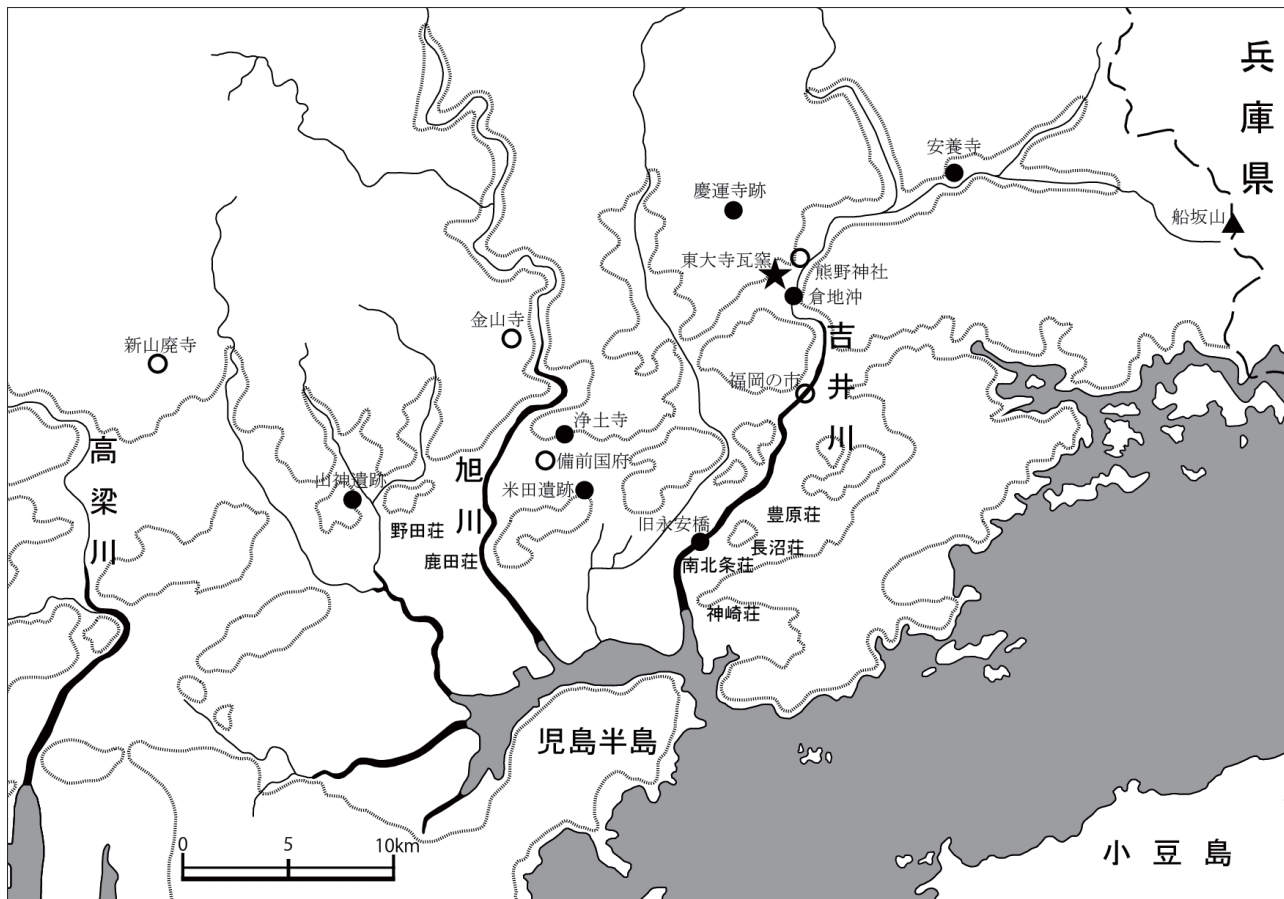
第7図 周防阿弥陀寺出土の東大寺瓦



第8図 大坂城下町跡出土の東大寺瓦



第9図 北新町遺跡出土の東大寺瓦



第 10 図 万富産東大寺瓦出土地と関連場所



第 11 図 東大寺別所と関連場所

重源関係略年表

西暦	和暦	事 項
1121	保安二	重源、京都に生まれる(紀氏の出)。
1133	長承二	重源、醍醐寺で出家。
1137	保延三	重源、四国を巡る修行。
1139	保延五	重源、大峰山ほかで修行。後に高野山で修行。
1155	久寿二	重源、源師行建立の醍醐栢杜堂に結縁。
1167	仁安二	重源、宋に渡る。翌年、栄西と共に帰国。
1175	安元元	重源、栄西が発願した鎮西誓願寺の本尊丈六阿弥陀像に結縁(像に周防の材使用)。
1176	安元二	重源、高野山延寿院に鐘一口を施入。「入唐三度上人」と自称。
1180	治承四	以仁王が平氏追討の令旨を発する。源頼朝が挙兵。源平の争乱で東大寺が焼ける。
1181	治承五 養和元	重源、法然房源空の推薦により東大寺復興の責任者(大勧進)となる。
		重源、宣旨を賜り勧進帳を作成し、一輪車六両を造って諸国を勧進す。 重源、東大寺大仏の螺髪を鑄始める。平清盛が死去。養和の飢饉。
1182	養和二 寿永元	重源、宋の技術者・陳和卿に東大寺大仏の鑄造に加わることを要請する。
1183	寿永二	重源、醍醐寺大湯屋の湯釜鑄造を勧進、河内国の鑄物師・草部是助が湯釜を鑄造。
		東大寺大仏の鑄造に、草部是助らが加わり、翌年完成す。 この頃から、重源、自ら「南無阿弥陀仏」と称し、人々に阿弥陀仏号をつけ始める。
1185	元暦二 文治元	源頼朝、東大寺に黄金一千兩などを寄進。「壇ノ浦の戦い」平氏が滅びる。文治(元暦)地震。
		平頼盛が後白河院より播磨国・備前国の知行権を賜る。この後、東大寺が許可を得て備前国長沼荘と神崎荘を開発。 東大寺大仏開眼供養。
1186	文治二	重源、東大寺再興祈願のため伊勢神宮参詣。
		周防国が東大寺造営料国となる。翌年より、杣から木材を切り出す。 重源、周防国に向いその帰途、備前国に立ちよる。平頼盛が死去。
1187	文治三	源頼朝、東大寺復興の材木運搬を妨害しないよう周防国の地頭に命ずる。
		この頃、重源、周防阿弥陀寺創建。東大寺浄土堂を建てる。 東大寺造寺長官藤原行隆が備前国南北条荘を東大寺へ寄進。 この頃までに東大寺が備前国の南北条荘、長沼荘、神崎荘を開発する。 重源、備前国荒野開発を願出、その妨害停止を奏上。
1190	建久元	東大寺大仏殿上棟。東大寺東南院再建。陳和卿、東大寺浄土堂に伊賀の三荘を寄進。
1192	建久三	播磨国大部荘(東大寺領)を復興、播磨浄土寺浄土堂を建てる。後白河法皇が死去。
1193	建久四	播磨国・備前国が東大寺造営料国となる。この頃、備前国の荒野を開発。重源、備前金山寺の修造結縁。
1194	建久五	頼朝、大仏光背のための砂金三百三十兩を施入。守護・御家人に東大寺再興の助力を命ずる。
		仏師快慶など東大寺中門の多聞天・持国天像を作る。
1195	建久六	大仏殿・中門などが完成。東大寺供養が行われる。後鳥羽天皇、源頼朝が参列。重源、大和尚号を得る。
		陳和卿、東大寺に周防国宮野荘を寄進。重源、宋版一切経を醍醐寺に施入。この頃、醍醐栢杜九躰阿弥陀堂を修築。
1196	建久七	魚住泊・大和田泊の改修計画が認められ、国衙に協力が命じられる。
		東大寺領の備前国荒野を同野田荘との交換が認められ不輸地となる。 宋の石工・伊行末等、東大寺大仏殿の石の脇士像、四天王像、中門の石獅子などを造る。 宋の阿育王山の舍利殿造営に結縁、周防国の材木を寄進、自身の木像を送る。
1197	建久八	東大寺大湯屋鉄湯船を造る。東大寺戒壇堂、八幡宮の造営。
1199	建久十 正治元	東大寺南大門の上棟。源頼朝が死去。
		東大寺法華堂を修造。
1200	正治二	東大寺開山堂を修造、尊勝院再建。
1202	建仁二	重源、河内国の狭山池を改修、伊賀国に新大仏寺を創建(伊賀別所)。
1203	建仁三	東大寺南大門の仁王像、運慶・快慶らにより造像。
		東大寺総供養。重源、活動の実績を『南無阿弥陀仏作善集』にまとめる。 『備前国麦進未進並納所下惣散用状』に万富産の瓦を示す「吉岡御瓦」の字句あり。
1204	元久元	東大寺東塔の造立を開始。
1206	建永元	重源、東大寺浄土堂で死去(86歳)。